ダイショー

工場の省エネルギー化推進 燃料転換で CO₂ 排出量削減



▲燃料を重油から LNG へ転換した関東工場

ダイショーは、持続可能な社会と事業成長の両立の実現に向け、さまざまな活動に取り組んでいる。環境に関しては、行動規範に「企業活動における環境影響を評価し、環境負荷と環境リスクの低減に努めます」と記載するとともに環境方針を制定し、取り組みを進めている。

重点的な取り組みのひとつは工場の省エネルギー化だ。2020年度には関東工場でボイラー設

備の更新にあわせて燃料を重油からLNGへ転換した。この投資により、燃料コストの低減、省エネルギー化を実現するとともに工場からのCO₂排出量の削減に大きく貢献した。

産業廃棄物のうち、リサイクル可能な段ボール、 缶類などは再資源化し、リサイクル不可能な樹脂 包材などは産業廃棄物マニュフェストに沿って処 分している。

食品ロスについては、発注精度を向上させ、在 庫日数の削減と在庫管理を徹底することで、食品 廃棄物の発生を抑制している。

製造面では、包材の薄肉化やリサイクルプラスチックの採用、廃油の塗料原料への再利用や排水汚泥の堆肥化などの活動を実施。残業削減や時短推進、育休明け社員の働き方改革への支援などの働く環境の改善も推進している。

フードバンクへの商品提供による社会貢献と食品ロス削減などの社会貢献活動を含め、今後とも、SDGsのめざす持続可能な社会の構築に向け、事業を通じた貢献に努めていく考えだ。

大物

信頼関係で築いた地位 物流最適化が環境にも貢献



▲日阪俊典社長

「日清チキンラーメン」の販売を目的に 1958 年に創業。その後、順調に商売を拡大しながら、50 周年の 2008 年には売上高が 100 億円を突破した。20 年 9 月期は 6 期連続の増収で、125 億円を超えた。

近畿2府4県を地盤に、総合食品問屋としての 地位を築いている。それを可能にしているのは メーカー、そして主要得意先である地域卸との信 頼関係だ。昨年以降、コロナ禍でテレワークが浸透し、交流の場でもある展示会は軒並み中止となったが、個別の商談会を開くなど、つなぎ役としての卸の役割を発揮。「展示会がなくなり、特に地域メーカーは販売に苦心していた。そのような商品を一緒になって売り込むことが地域卸としての強みにつながる」と日阪俊典社長。

ここ数年は販売利益と物流の改善に注力しており、物流においては自社配送を増やしながら最適化とローコスト化を進め、物流費の低減につなげた。「業界では大型物流センターの新設が増えているが、まだ使える物件もある。自前の倉庫が必ずしも良いとは限らず、結果的にコストが高まり体力を弱めるリスクもある。固定化したものでなく流動性のある倉庫の利用や、同業との共同配送などを進めることが環境にとってもプラスになるのではないか」。社内業務においては、受発注におけるデジタル化を推進しており、ペーパーレス化も進んでいる。「取扱量の多い先から変えていき、生産性を高めたい」。